

平成二十五年度 高校生世代「人権の詩」
【優秀賞作品】

あなたへ

「大丈夫だけん 心配せんで」とあなたが言った火曜から
あなたの顔を見ないでもうすぐ月曜日が終わろうとしています
隣のクラスの茶色い髪の女の子達が

あなたのことを笑っているのを廊下で聞きました
けれどもあなたが一人で泣いていた声を私は聞けてはいなかった

5・1億平方キロメートルのこの広い地球で
どうしてこんなにも息苦しくなるんでしょう
教室の片隅の空いた机と私までの距離が

なんだか銀河の果てからここまでと同じくらいに感じます

「もうあたしには関わらんがいいよ」とあなたが言った火曜から
あなたの顔を見ないでもうすぐ一ヶ月ほどが経ちそうです
生徒指導の先生が全校生徒に声を張り上げ

あなたのために怒っているのをみんなで聞きました
けれどもあなたが一人で叫んだ言葉すらわたしは聞けてはいなかった

八百万もの神様達が毎年やってくるこの場所だから
到底一人ぼっちにはなれない筈だとわたしは思っていたのです
あした教室の片隅の空いた机が埋まったら
今度こそあなたの背中に声をかけてみたいと思います